

# 板紙・段ボール新聞

(昭和35年12月7日、第三種郵便物認可)

毎月7日、17日、27日発行

第二五六〇号

(二〇一四年)

26年8月7日



(株)日本紙工機械グループ(小崎亨社長)は、歴史を持ち、国内外に計2千台以上の実績が7月25、26日の2日間、ある。総合グループ本社工場(茨城県利根町)で「リノベーション」で「リノベーション」をテーマにした「リノベーション」を開いた。新機能など包括的な改修を施したワンタッチケースグループを紹介。各日3回の実演および説明会を行い、50社以上が参加した。小崎社長「写真①」は「当社の前身となるタナベと菅野製作所は、いずれも約70年の

## 日本紙工機械グループ 新機能追加、改修機を実演

リノベーショングループ見学会 50社が参加

ンを提供すべく今回新たな取組みに着手した」と見学会の趣旨を説明。  
「弊社マシンは非常



に頑丈で20〜30年稼働が「リノベーション」し続けているが、一方では、さらに省エネ等でコンピュータをはじめの新機能や小ロット多めとする電子関連部品 品種対応など現在のニのサイクルは約10年。ニーズに合ったマシンとメンテに限界もありオとして生まれ変わらせバーホールが必要だ。今回は1400「

サイズのワンタッチケイングベルト駆動のイースグループだが、今後ンバータ化」等も備えは板紙用まで幅広い。さらに開発中の新イズで展開する予定 機構(非公表)も加えで、まずコンセプトをられ、一層の精度向上確認していただきたいを実現する。

会場内では、組立中実演機は、今後さらにのグループやトライファイに25年間使用できるこーターなどを紹介。異とを念頭にリノベーション 品混入バーコード/画ヨ。スピード調整が像検査装置等の自社製数値化可能で細かいセ 品も実物およびスタックができる「給紙駆フを交え説明した。の独立インバータモ 同社では「新台ととター化」や、プラン もに、双方を合わせたクスへのキス解消および幅広いソリューションび押さえ圧力の微調整を提案する。お客様の可能な「給紙シャッタ 意向でリノベーション紙押さえエアシリンの範囲、費用や納期もター化」など現行グル変わるため、より一層アで定評のある機能を ユーザーサイドに立っ追加。「サイレントフ た営業を展開したい」